

新時代の新たな学校づくり

～「人と人とのつながり」の進化～

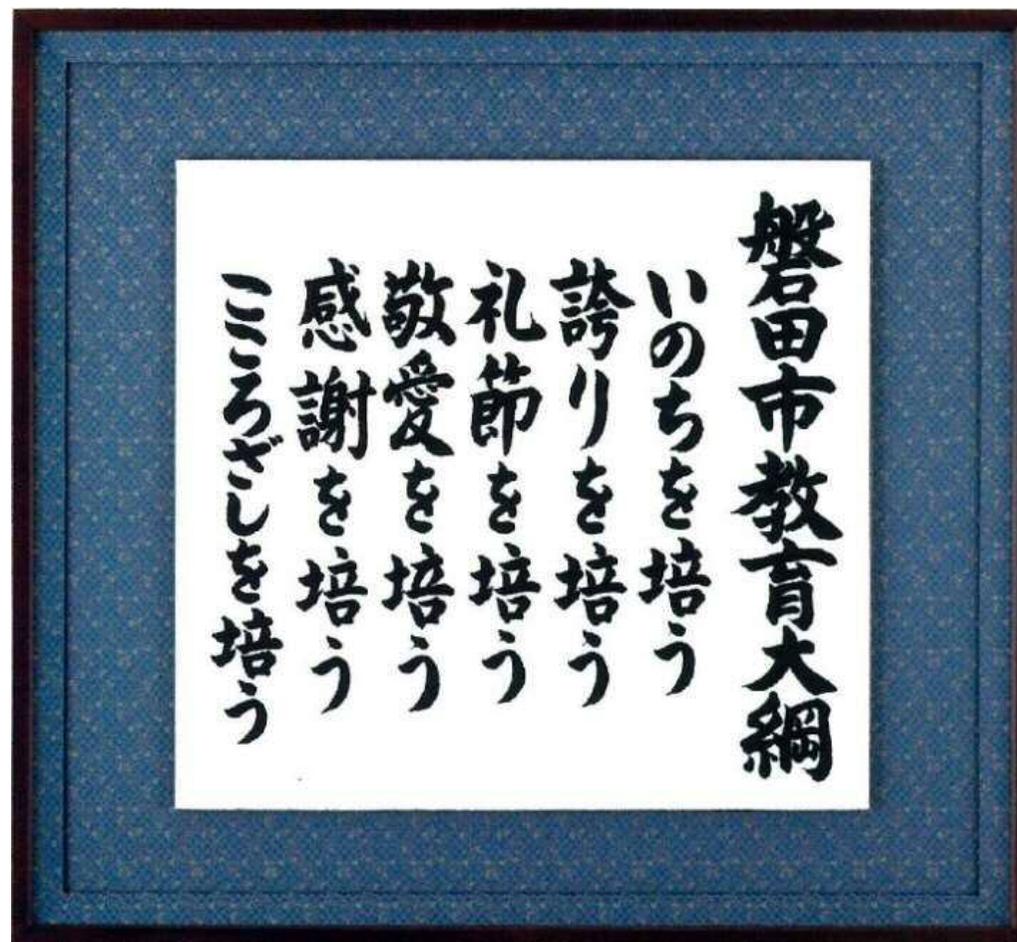
なかののり学院小中一体校

磐田市教育委員会

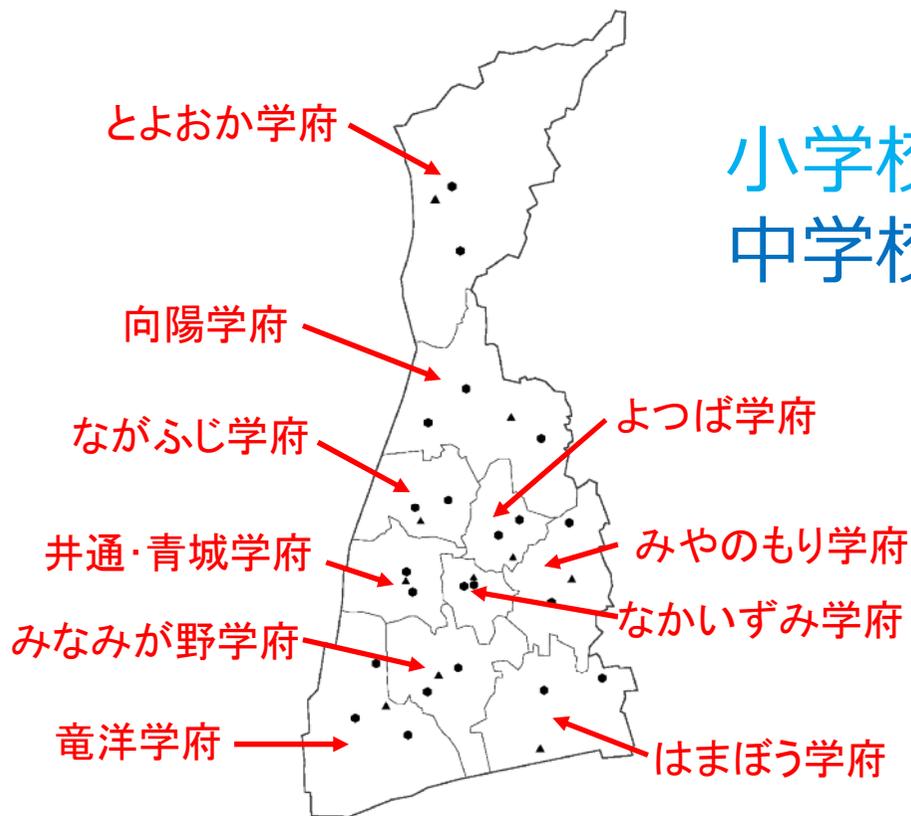
○「磐田市教育大綱の『培う』 に込められた願い」

昭和の時代の教育者、東井義雄先生の著書に「培其根」があります。その著書の中に、「根を養えば、樹は自ら育つ。根の深さと広がり、樹の高さと広がりになる」など、先生の教育に対する思いや願いが綴られています。

磐田市教育大綱は、全て「～を培う」と表現されており、この「培其根」の理念が込められています。



磐田市内の小中学校



小学校	22校	8,524人(R6.4.1現在)
中学校	10校	4,444人(R6.4.1現在)

※ **「学府」** ……律令時代、遠江の国府のあった磐田の地で、各中学校区が地域の歴史と文化等を踏まえ、それぞれの地域と連動した教育を行う中学校区の学校群（学府）

磐田市の教育をより充実発展させるために～人と人との「つながり」を深める～

・子ども同士のつながり ・地域とのつながり ・教員のつながり

<小中一貫教育>

向陽中 文化発表会
参観

小学校のあいさつ運動へ
中学生が参加

6年生 三小交流

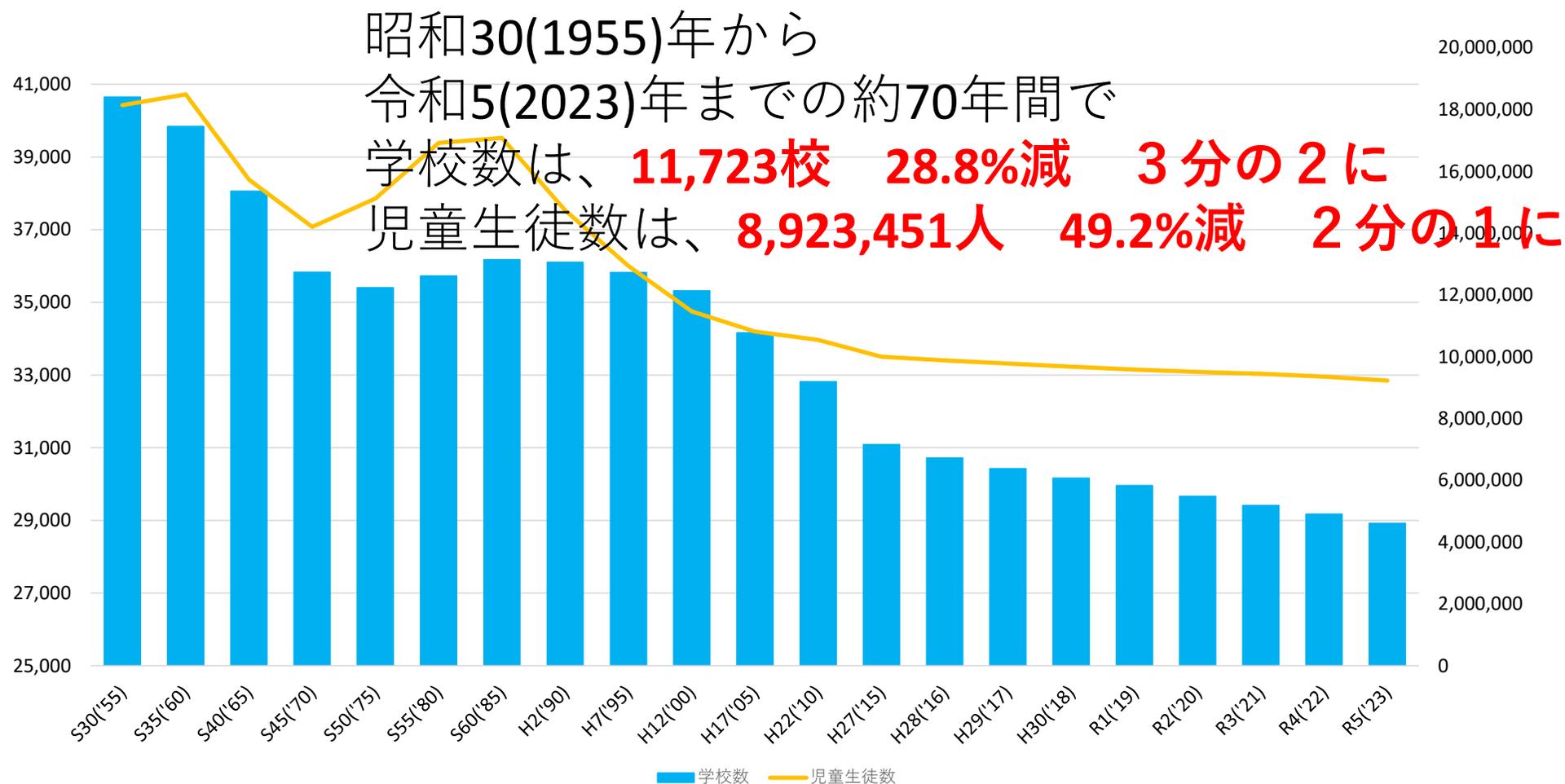
<コミュニティ・スクール>

食農体験支援(サツマイモ)

読み聞かせボランティア

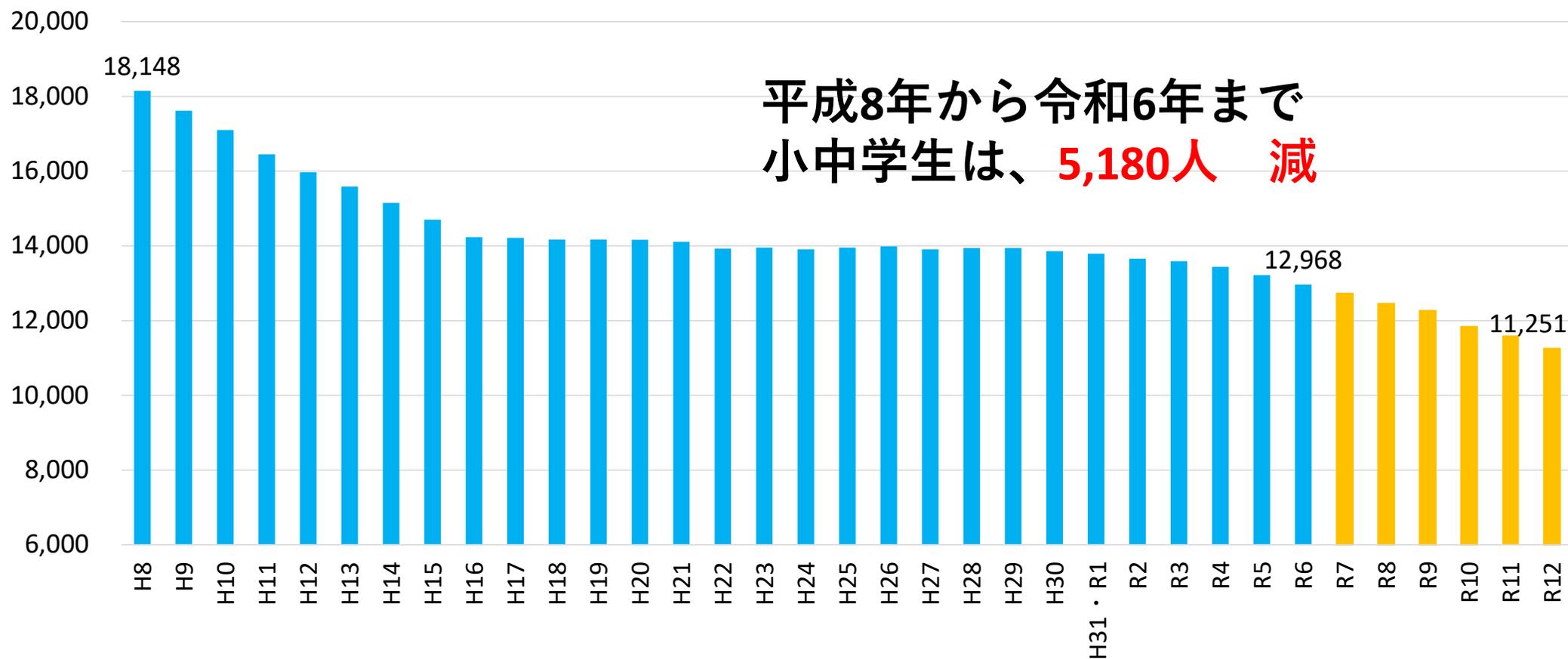
学習支援

小学校の学校数・児童数（全国）



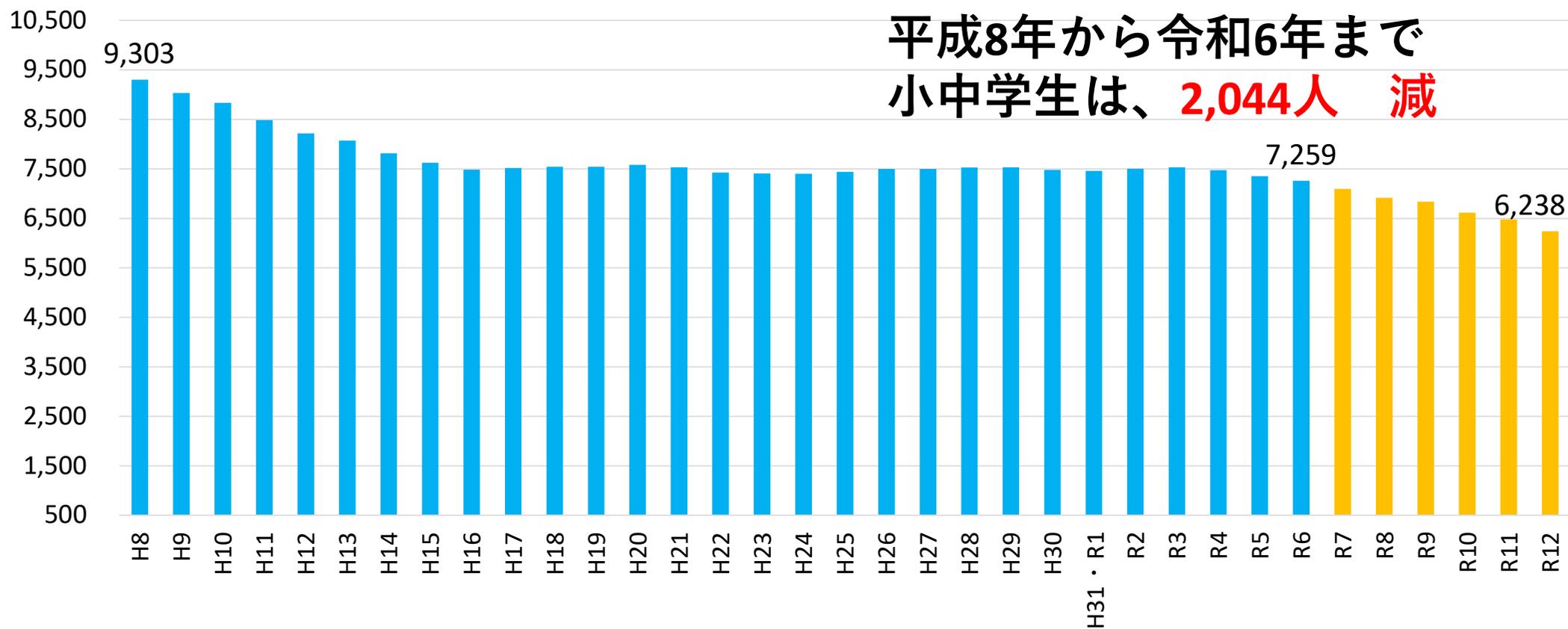
児童・生徒数の推移（磐田市）

年度別グラフ（小・中学校合計）



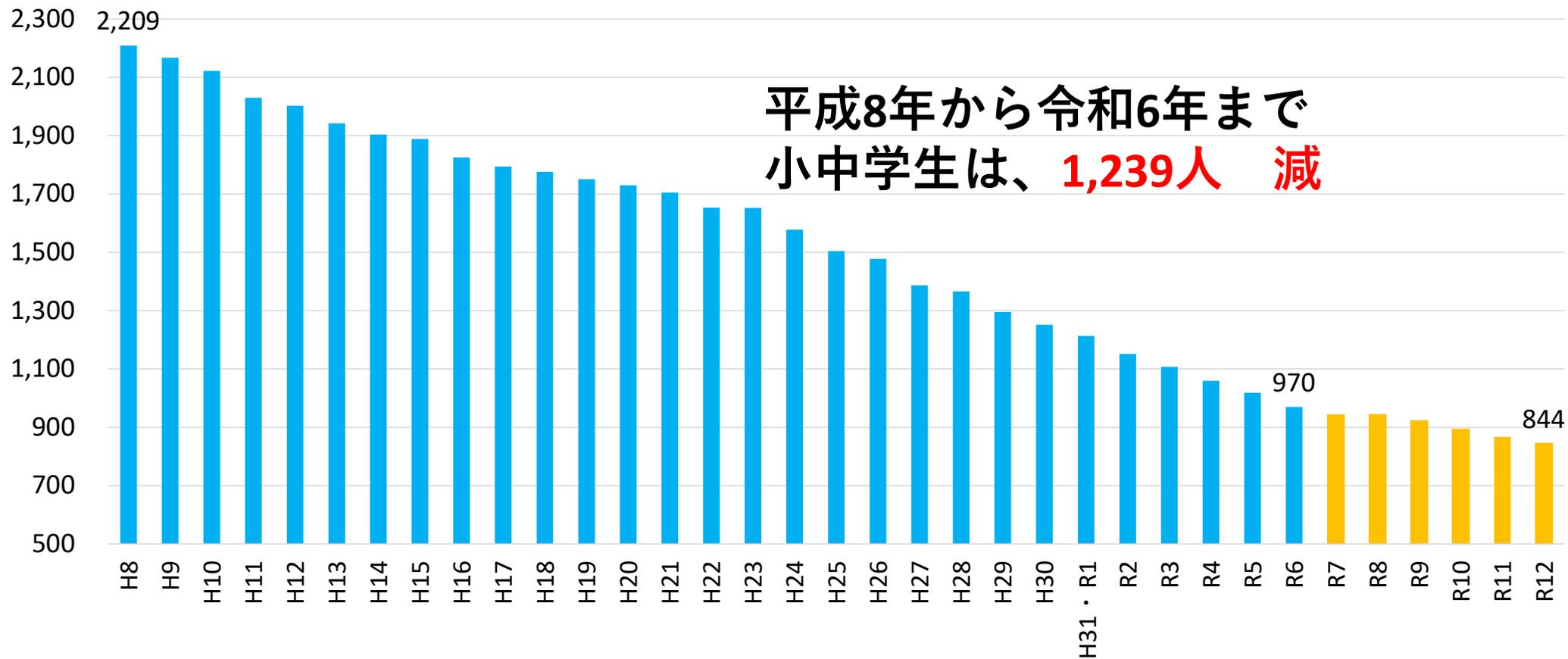
児童・生徒数の推移（磐田地区）

年度別グラフ（小・中学校合計）



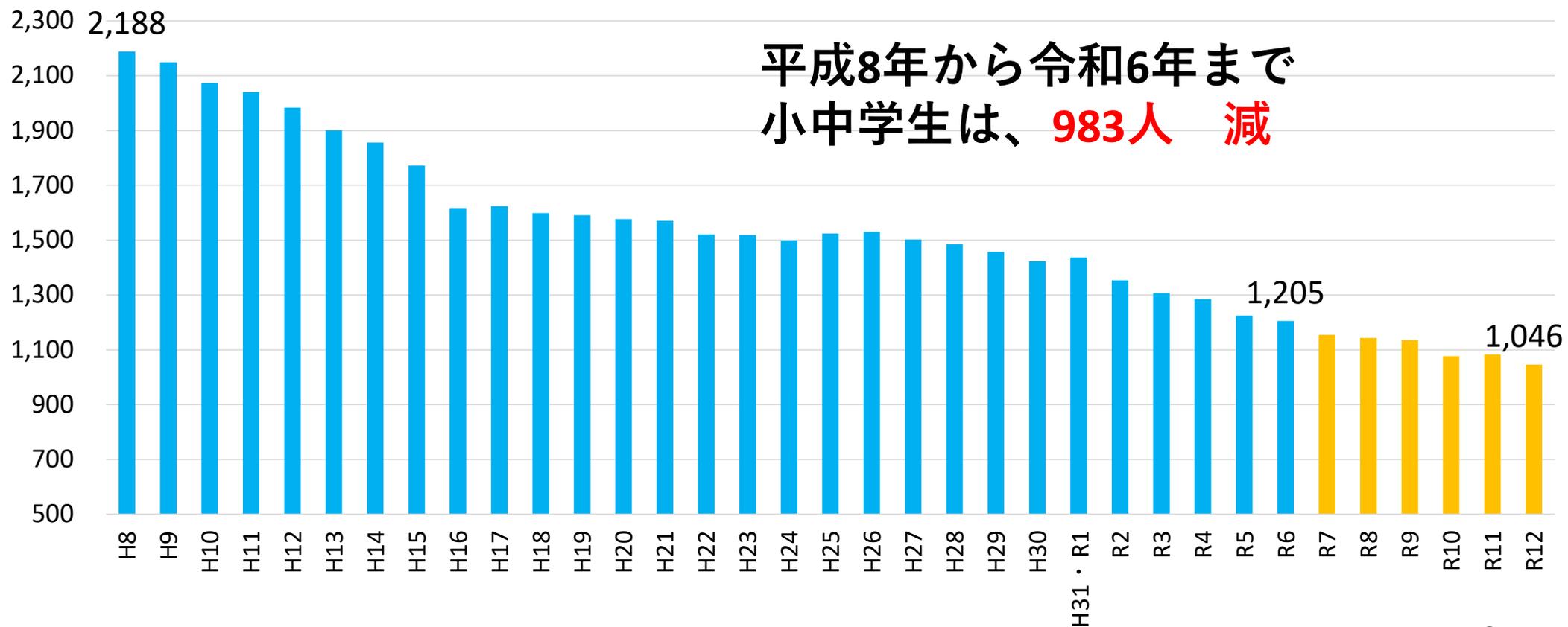
児童・生徒数の推移（福田地区）

年度別グラフ（小・中学校合計）



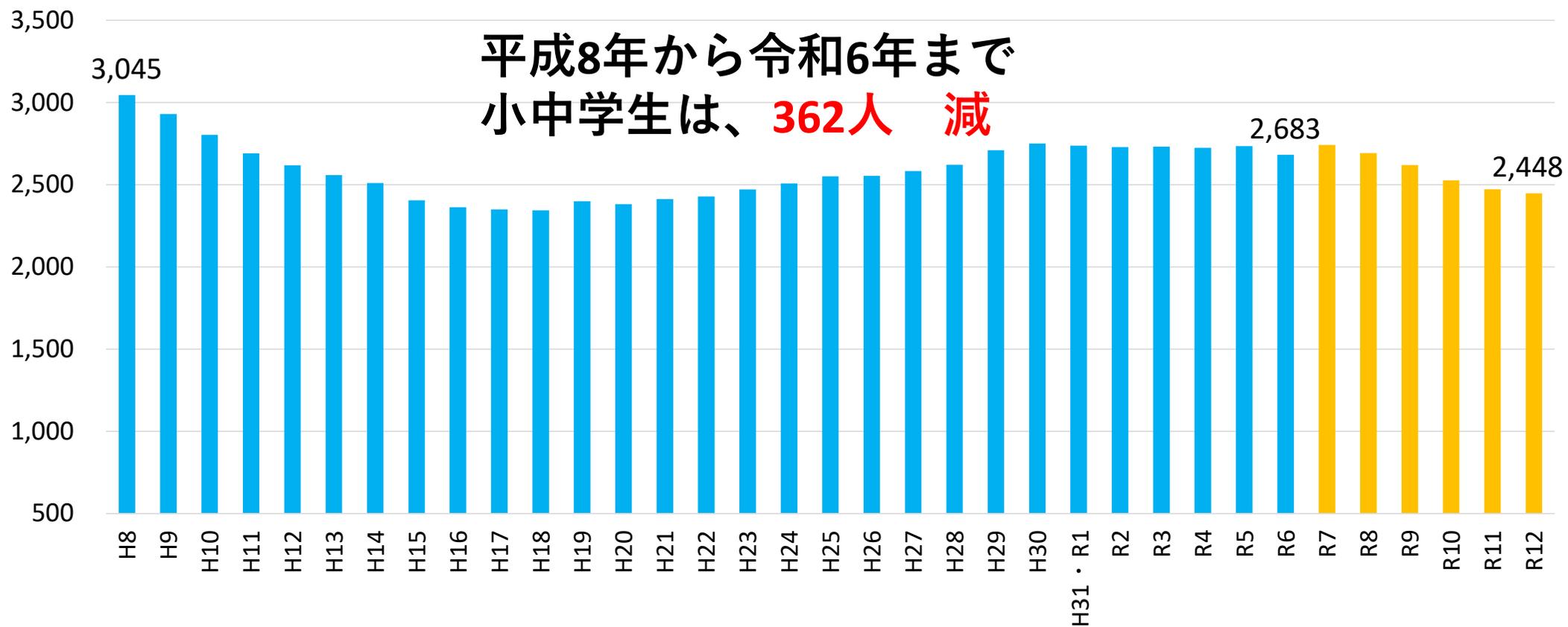
児童・生徒数の推移（竜洋地区）

年度別グラフ（小・中学校合計）



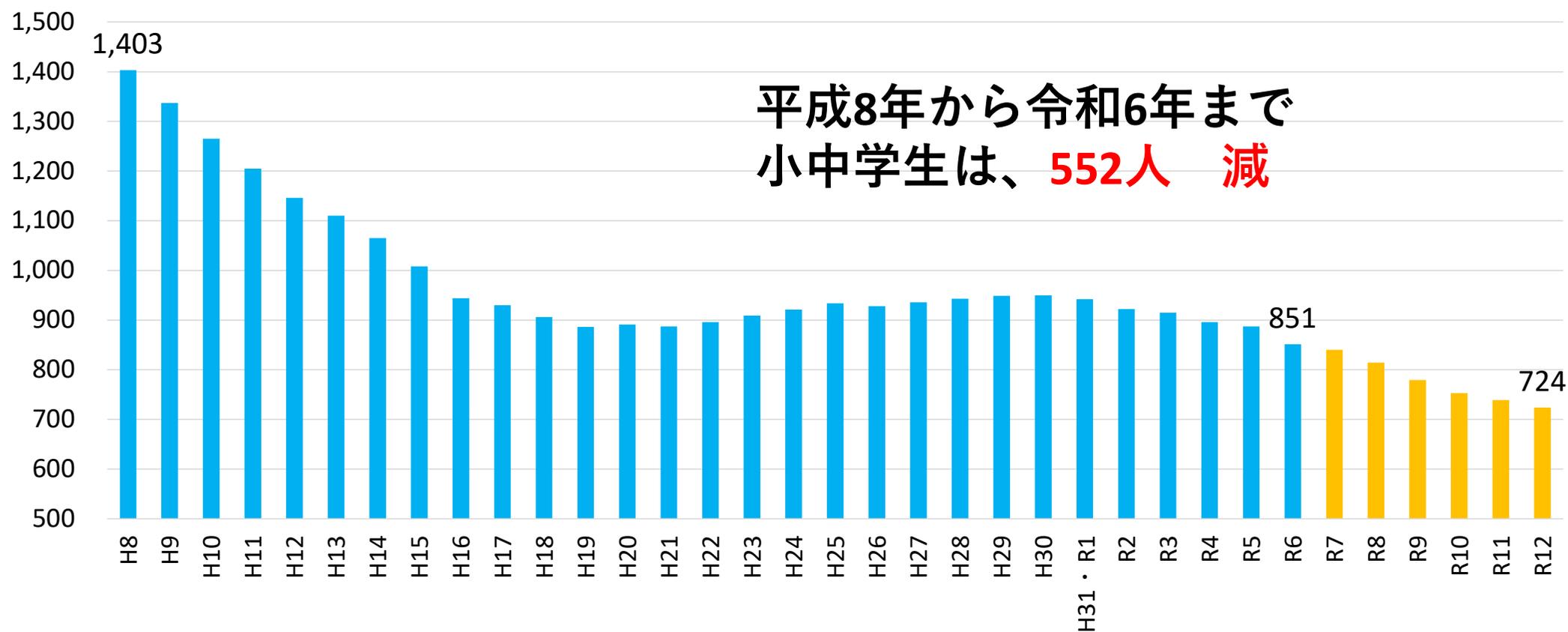
児童・生徒数の推移（豊田地区）

年度別グラフ（小・中学校合計）



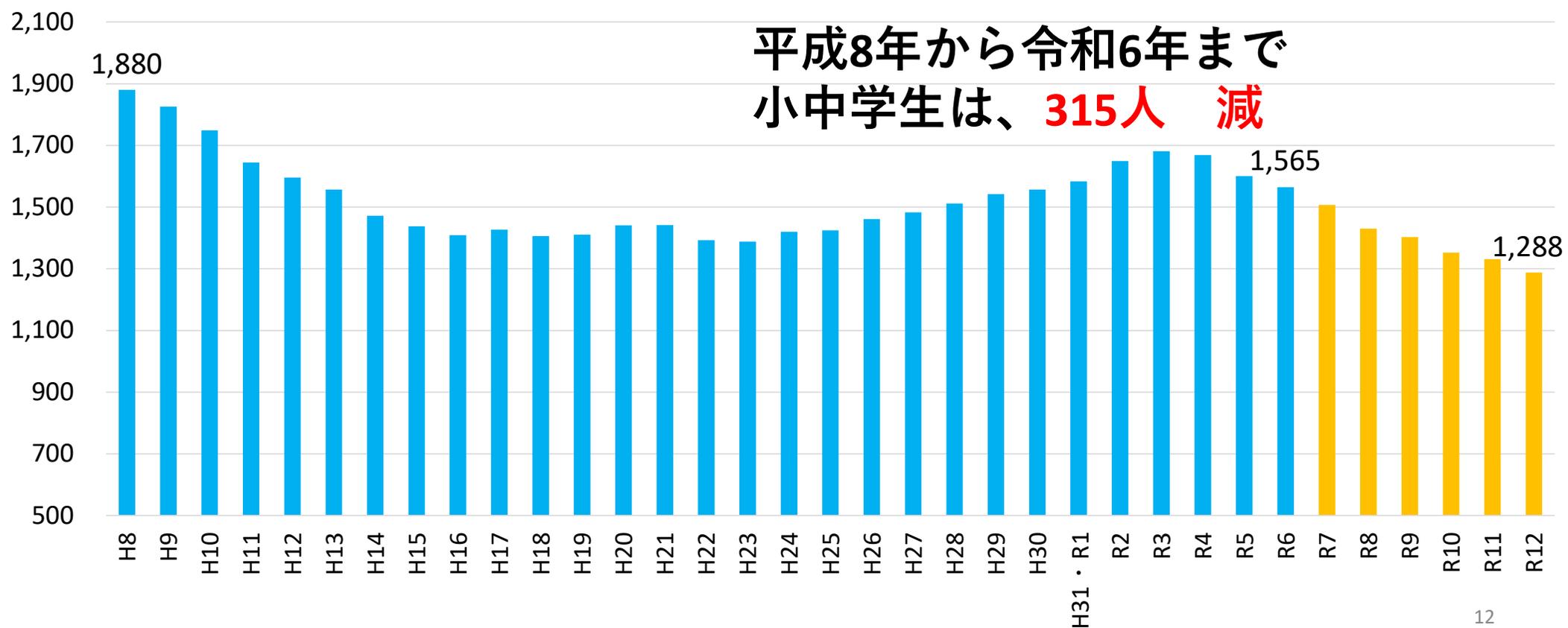
児童・生徒数の推移（豊岡地区）

年度別グラフ（小・中学校合計）



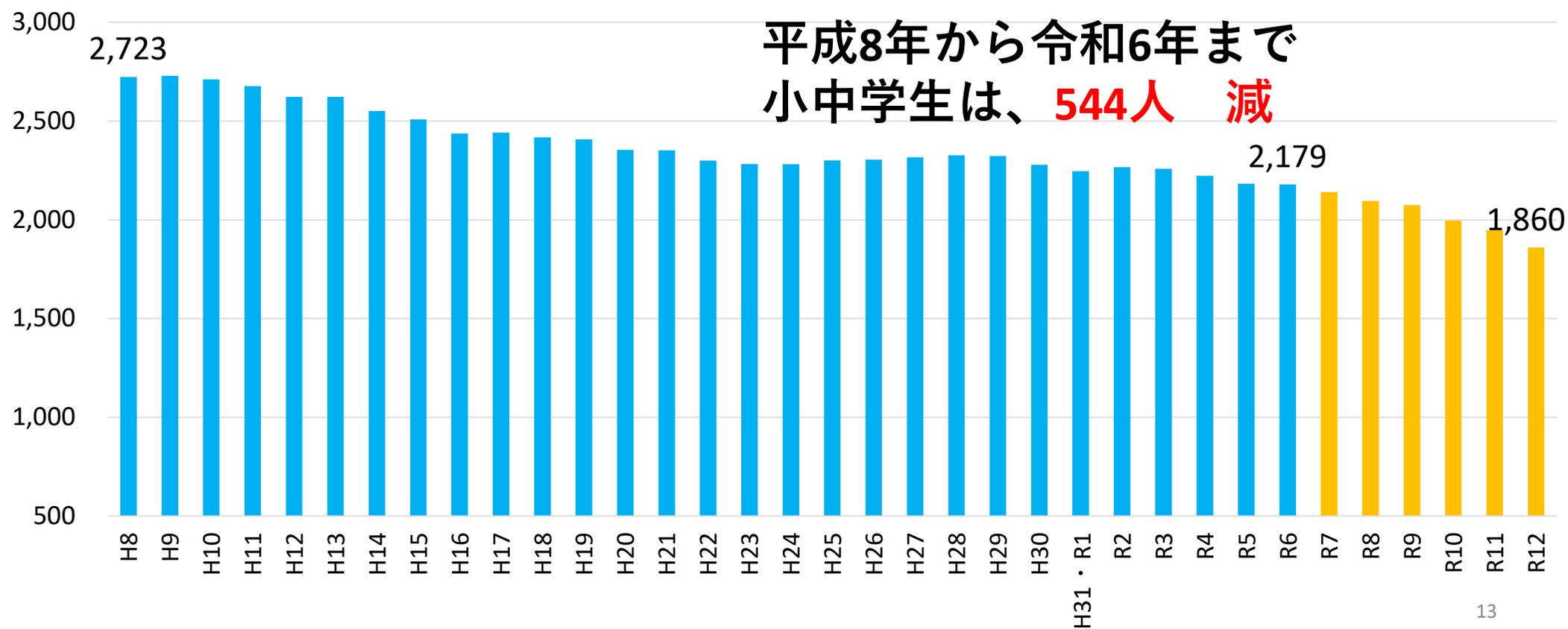
児童・生徒数の推移（なかいずみ学府）

年度別グラフ（小・中学校合計）



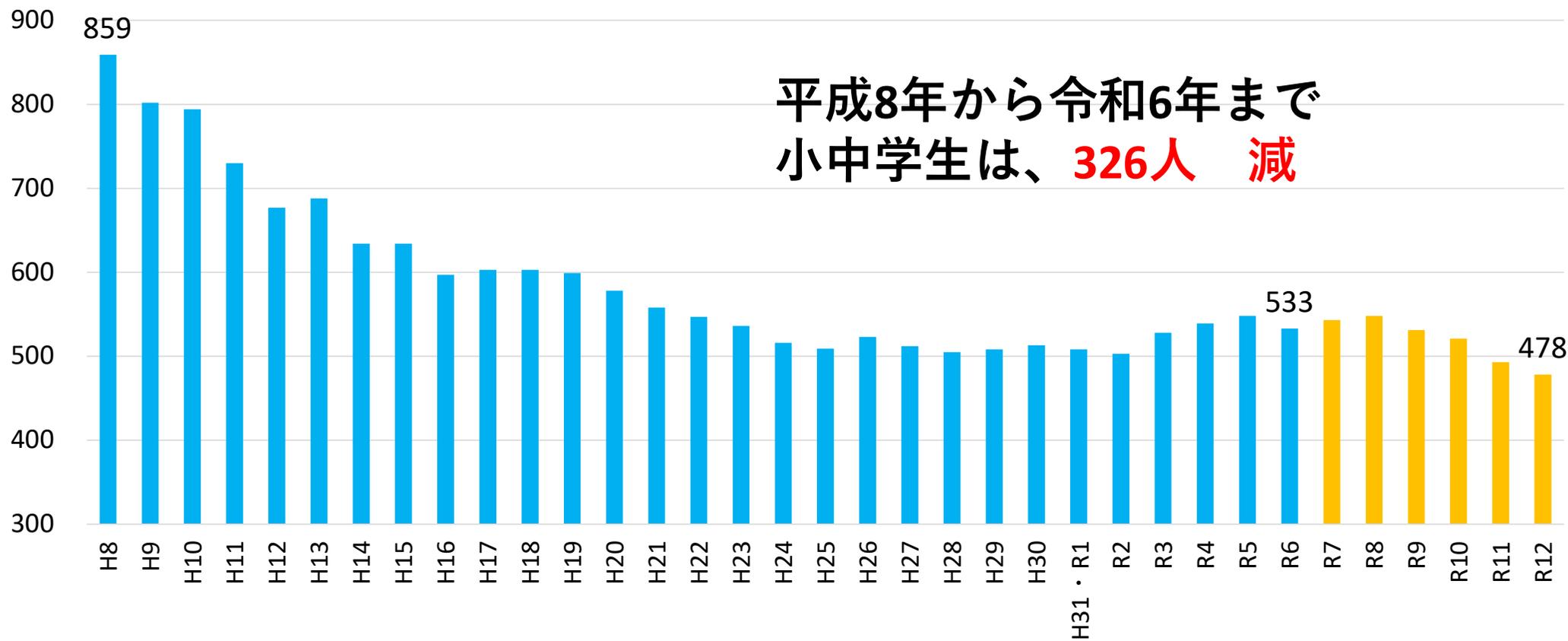
児童・生徒数の推移（よつば学府）

年度別グラフ（小・中学校合計）



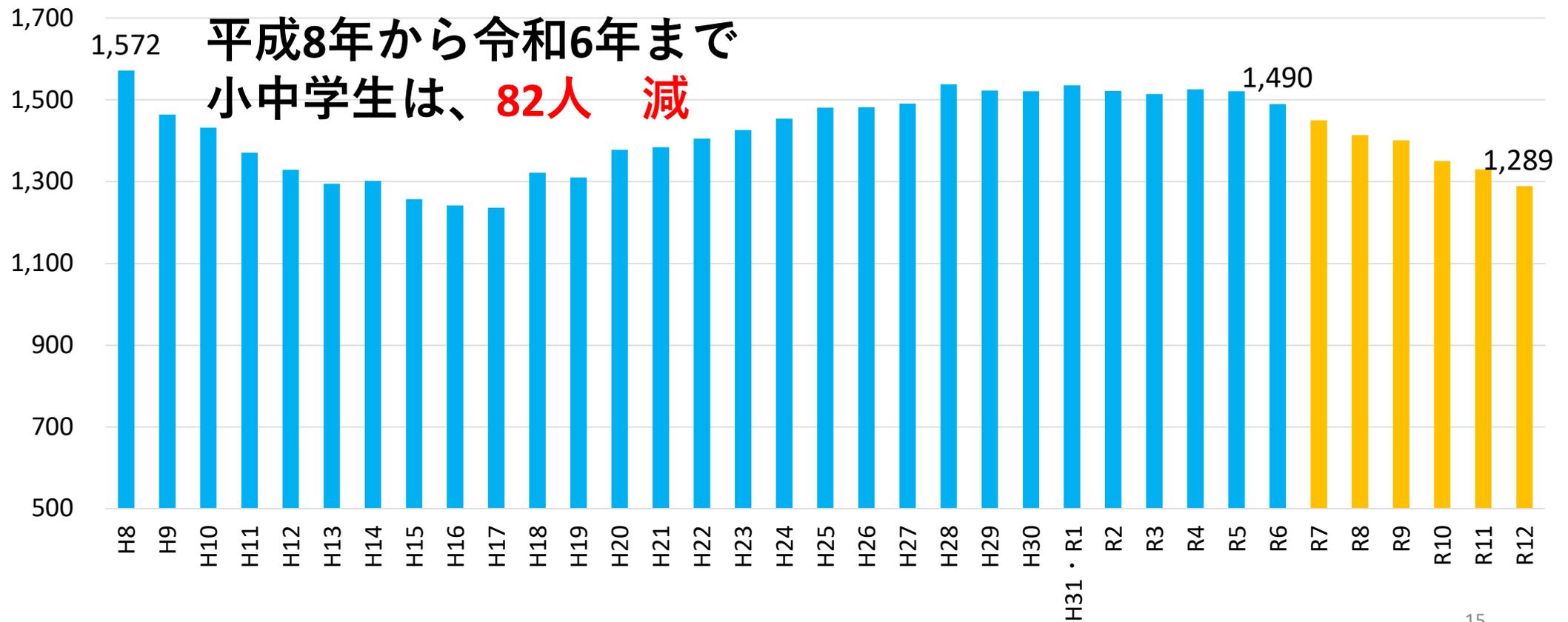
児童・生徒数の推移（向陽学府）

年度別グラフ（小・中学校合計）



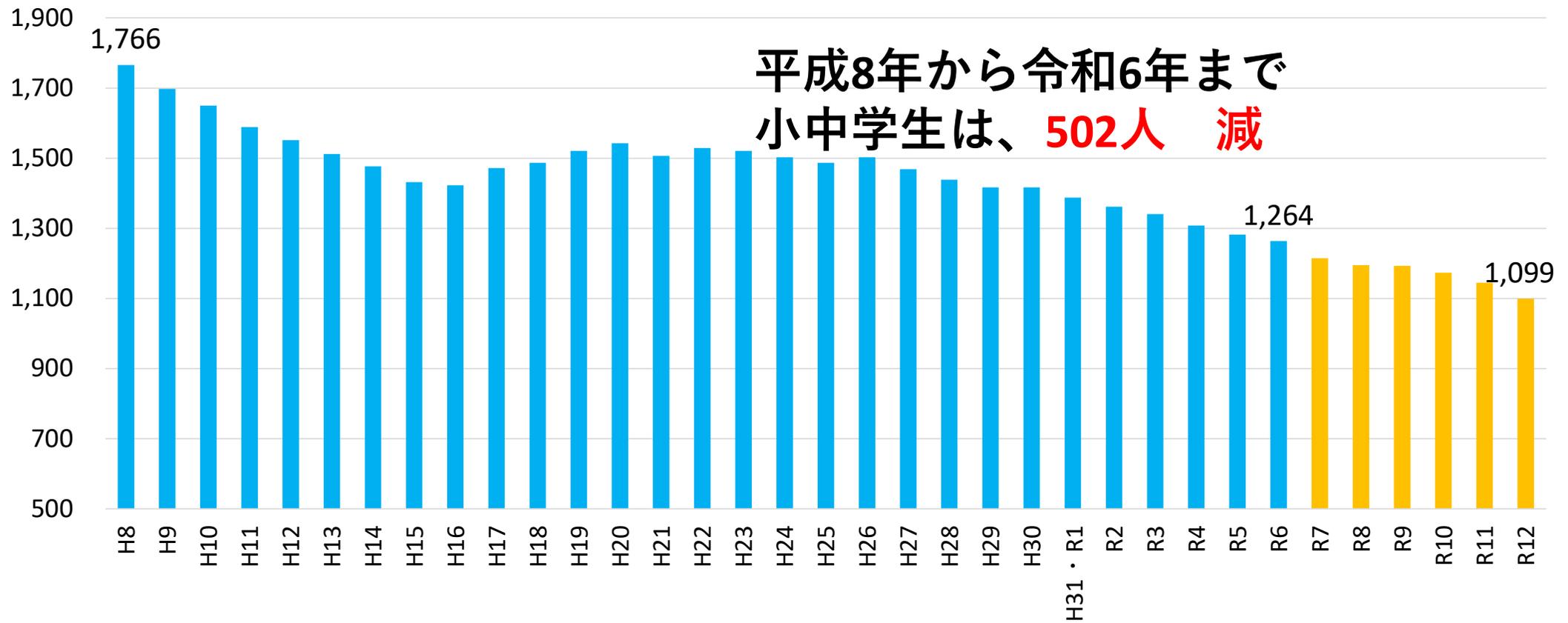
児童・生徒数の推移（みやのもり学府）

年度別グラフ（小・中学校合計）



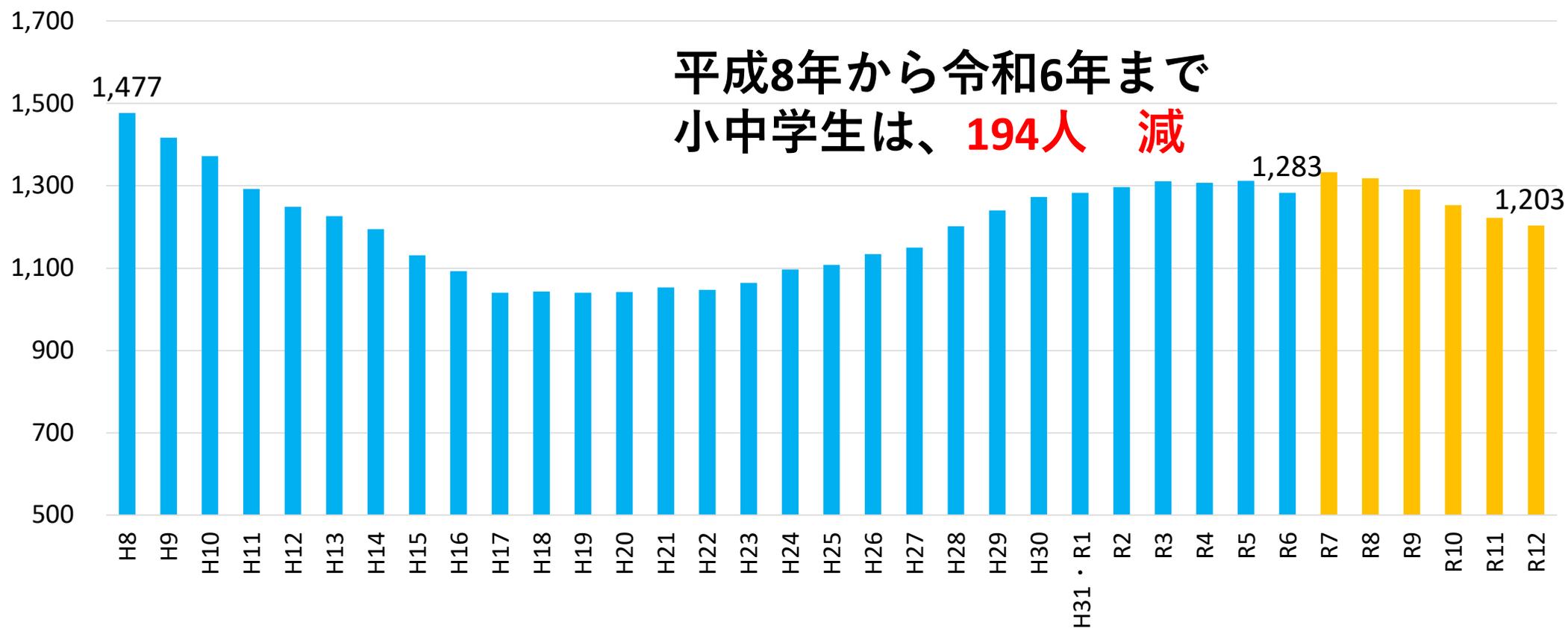
児童・生徒数の推移（みなみが野学府）

年度別グラフ（小・中学校合計）



児童・生徒数の推移（ながふじ学府）

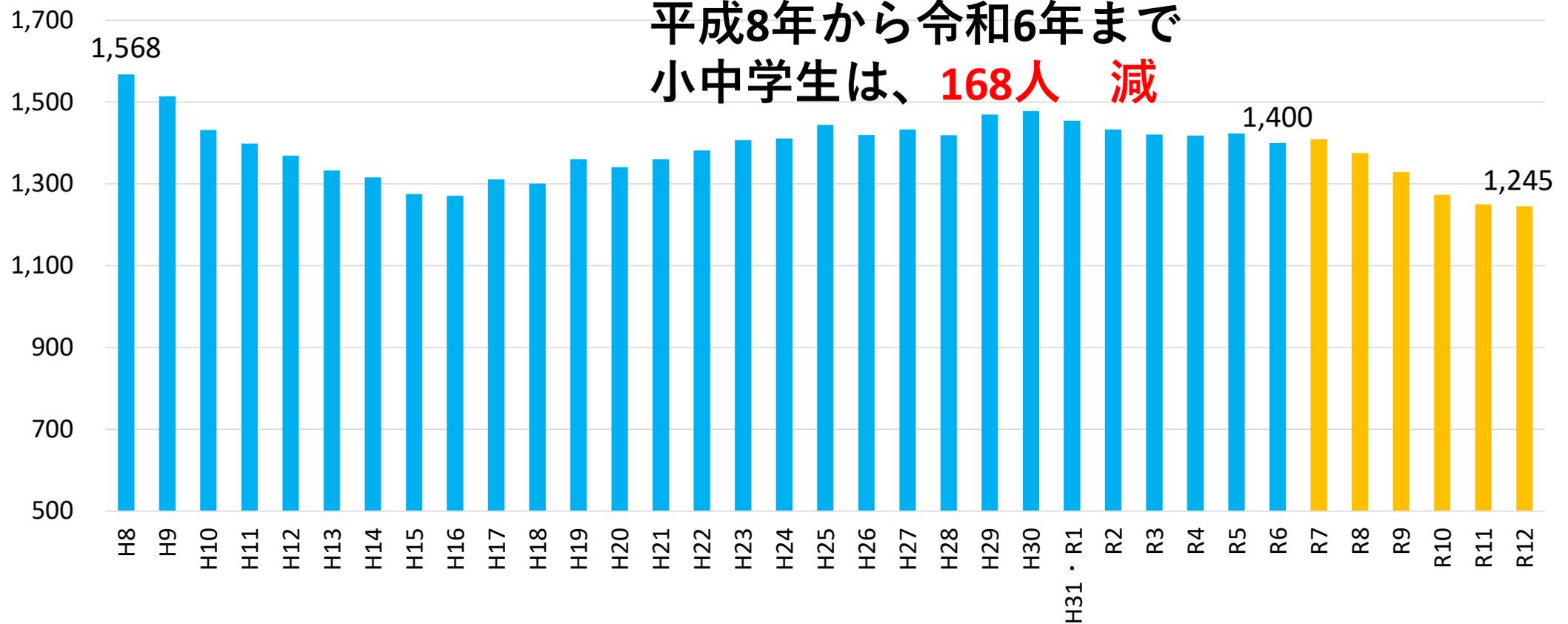
年度別グラフ（小・中学校合計）



児童・生徒数の推移（井通・青城学府）

年度別グラフ（小・中学校合計）

平成8年から令和6年まで
小中学生は、**168人 減**



学校の現状

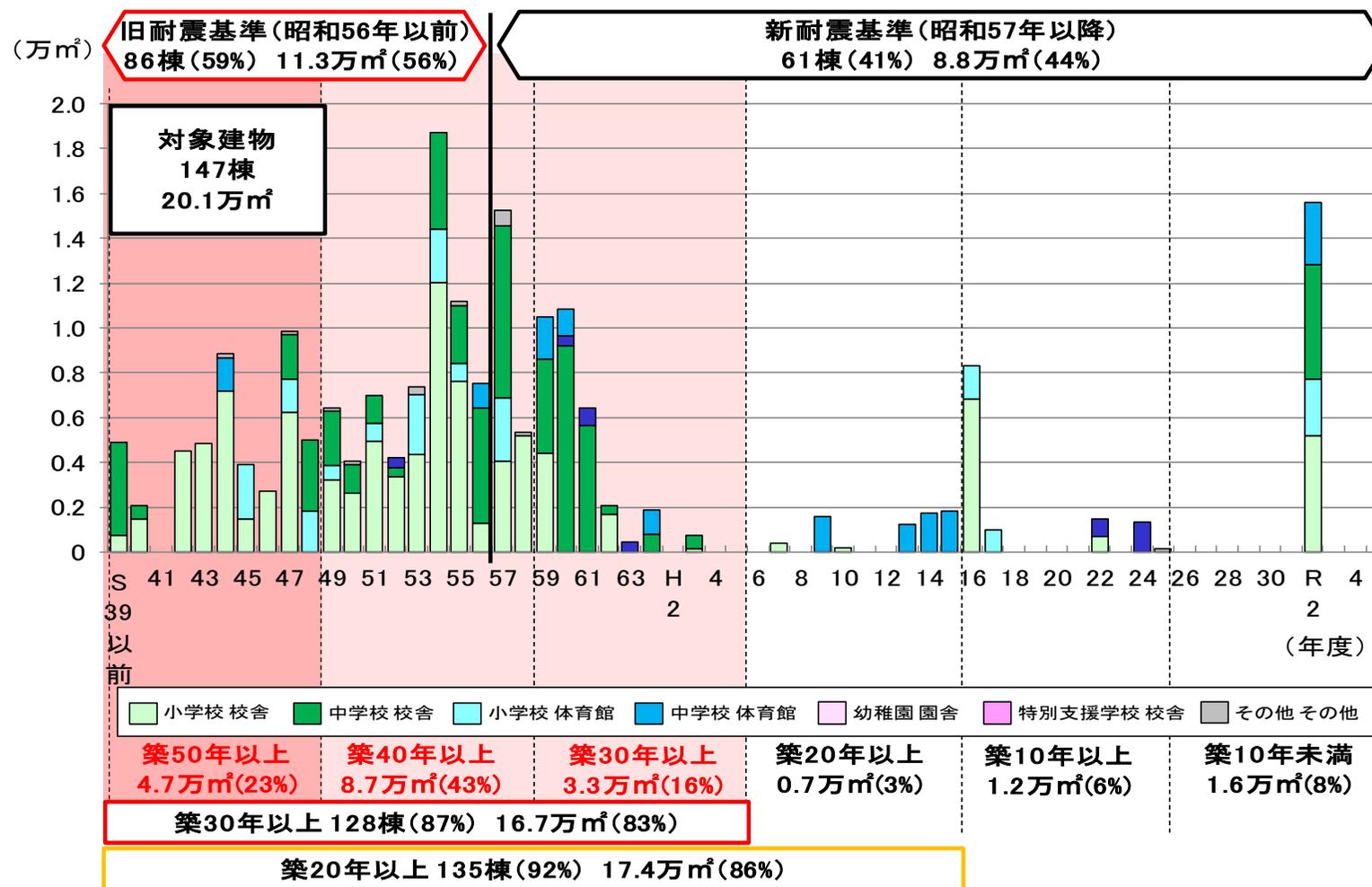
傾向として

- 特別支援学級や通級指導教室、外国人児童生徒指導教室、校内教育支援センター（心の教室）等の増加
- 放課後児童クラブ(小学校) の併設等



空き教室が少ない(不足) している学校もある状況

学校施設の現状（築年別整備状況）



これからの子どもたちが生きる時代 ～新時代の到来～

先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代 (VUCAの時代)

- 技術革新
- 人工知能(AI)、DX(デジタルトランスフォーメーション) 等
- 経済や社会のグローバル化
- 人口減少、少子高齢化⇒個々人の孤立化、人間関係の希薄化、地域コミュニティの衰退
- 予測できない国際情勢、自然災害 等

新時代の新たな学校づくりに向けて

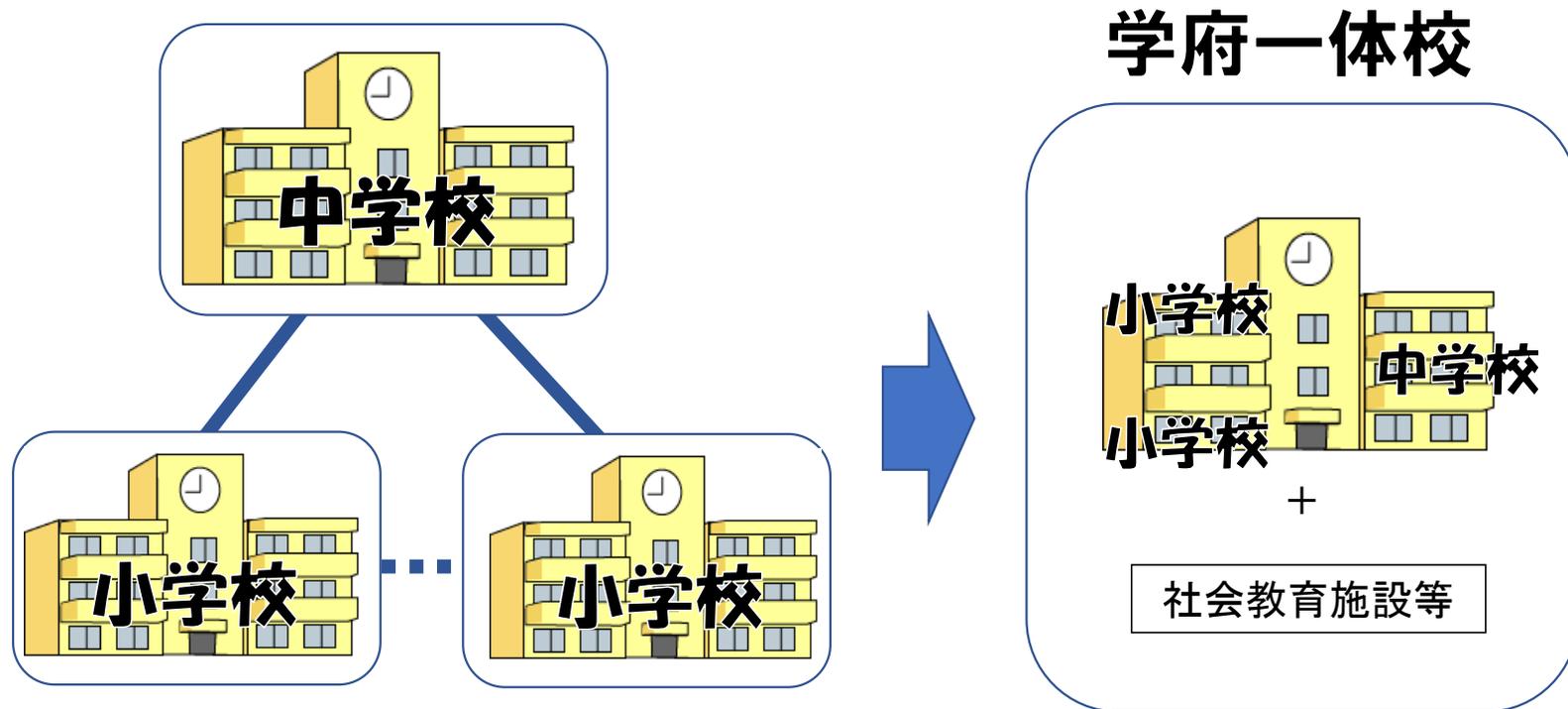
平成27年度「新時代の新たな学校づくり研究会」にて研究開始
～磐田市の教育をより充実発展させるために～

人間的なつながりが希薄になる中
人と人とのつながりが大切になる
“心の豊かさ”+“たくましさ”を



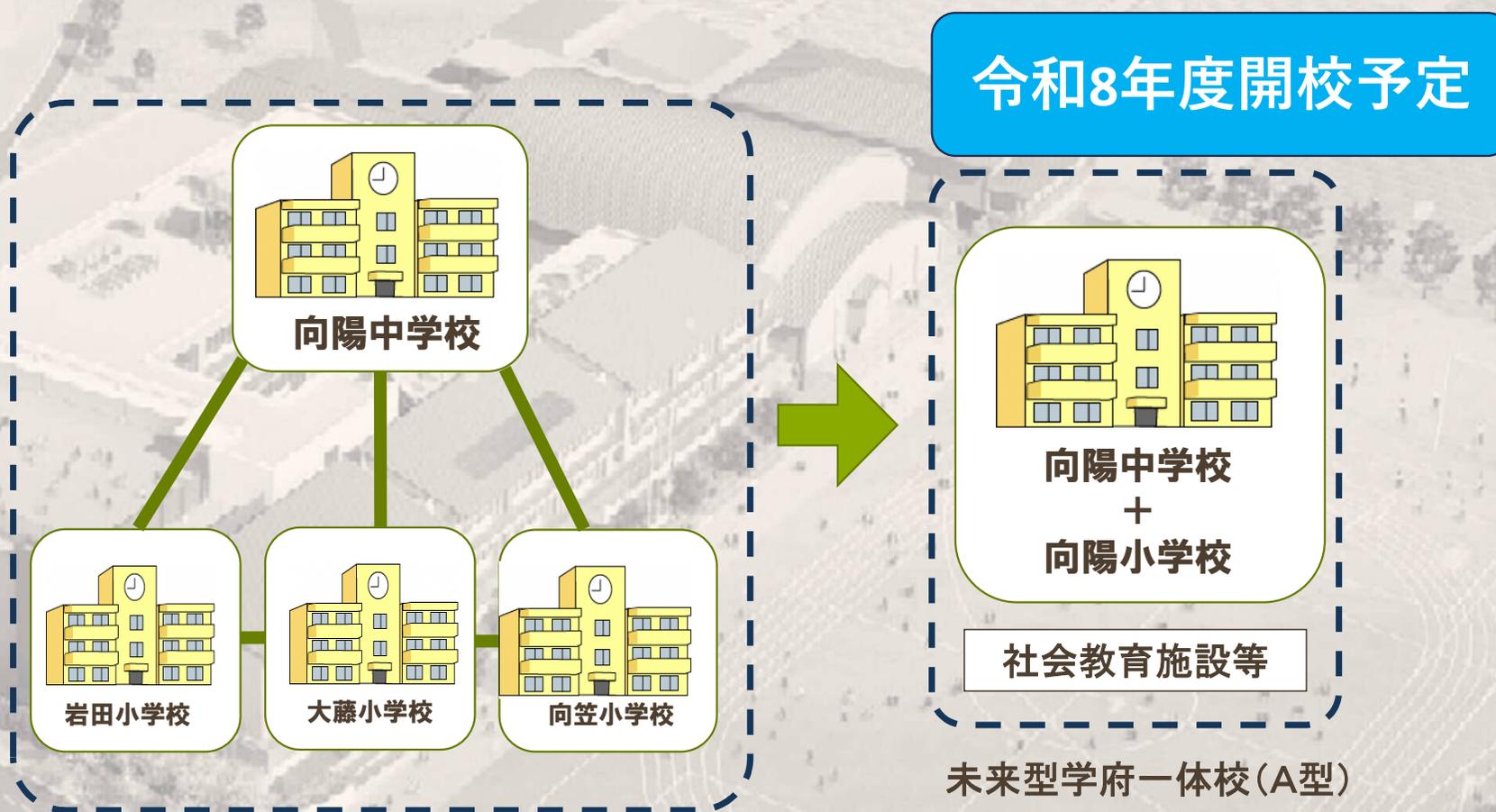
- ・小中一貫教育、コミュニティ・スクールのさらなる推進
- ・よりよい教育環境の充実を図る（学校施設の老朽化への対応も含む）
～人と人との「つながり」のさらなる進化～

未来型学府一体校（A型）



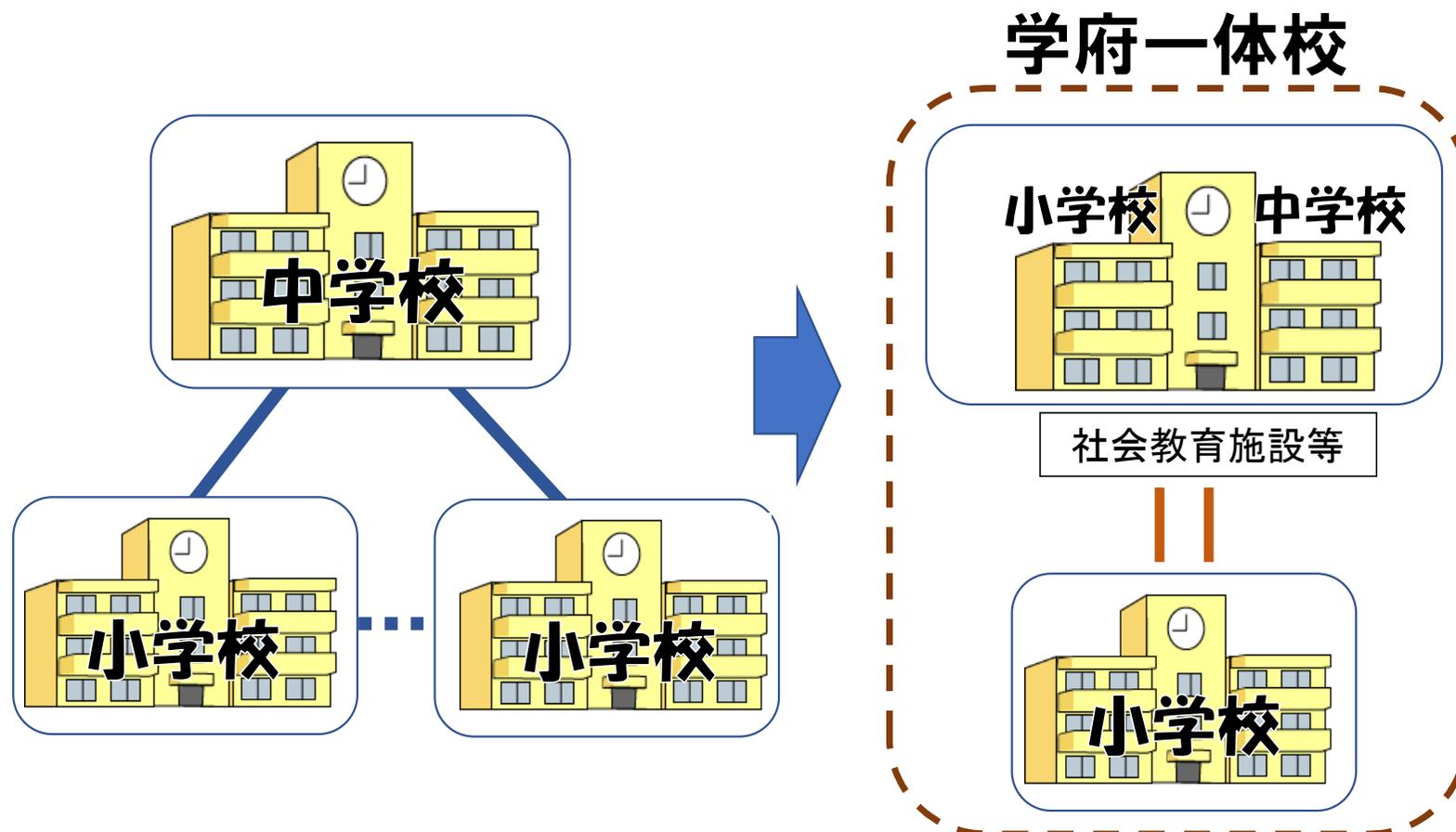
☆各学府にある小学校と中学校をすべて、施設一体型として一つの敷地に設置するもの

向陽学府一体校（A型）の方向性



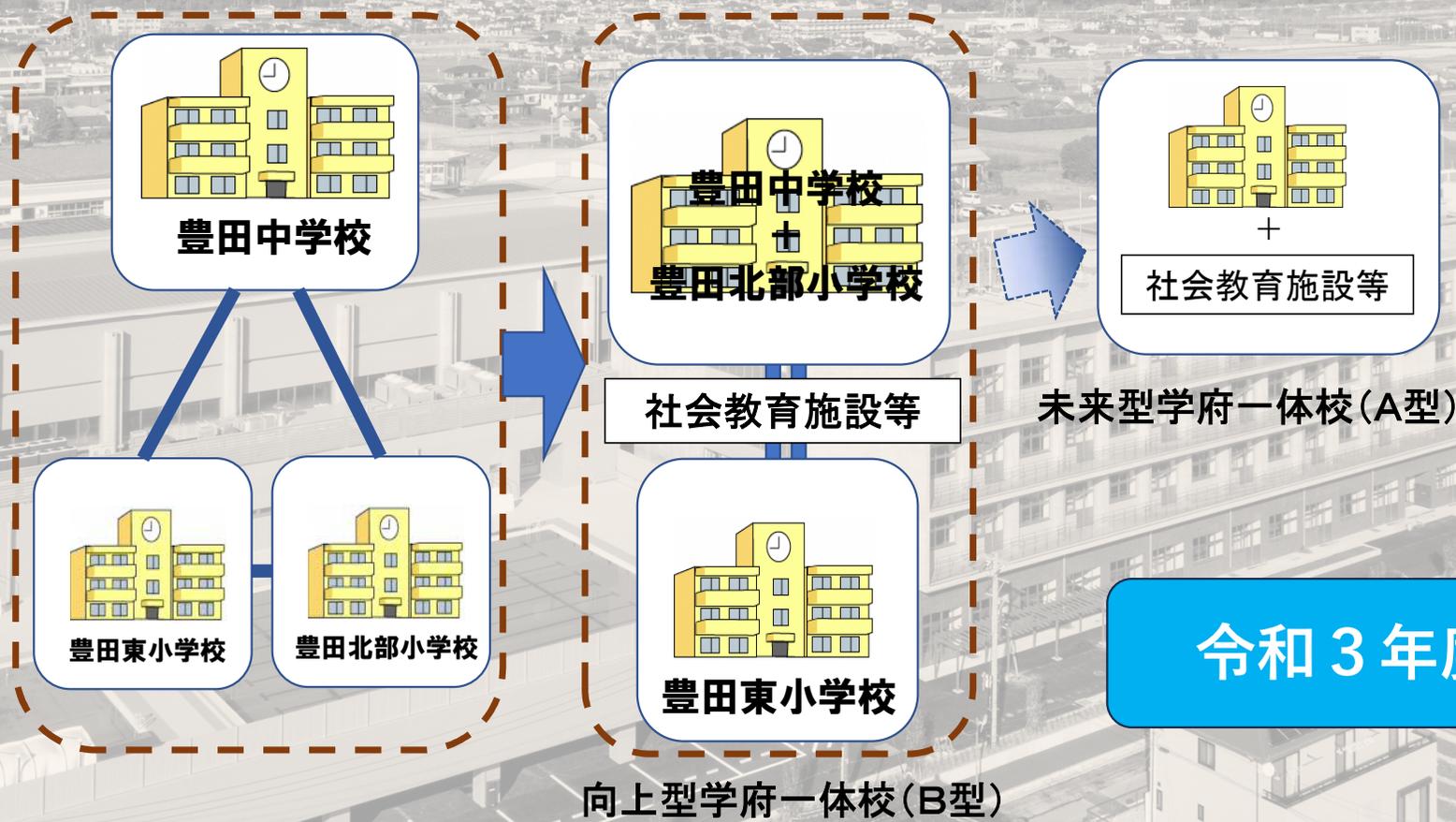
※A型になることで、単学級からクラス替えができる規模に

向上型学府一体校（B型）



☆学府内に施設一体型の小中学校と既存施設で運営する小学校が存在するもの

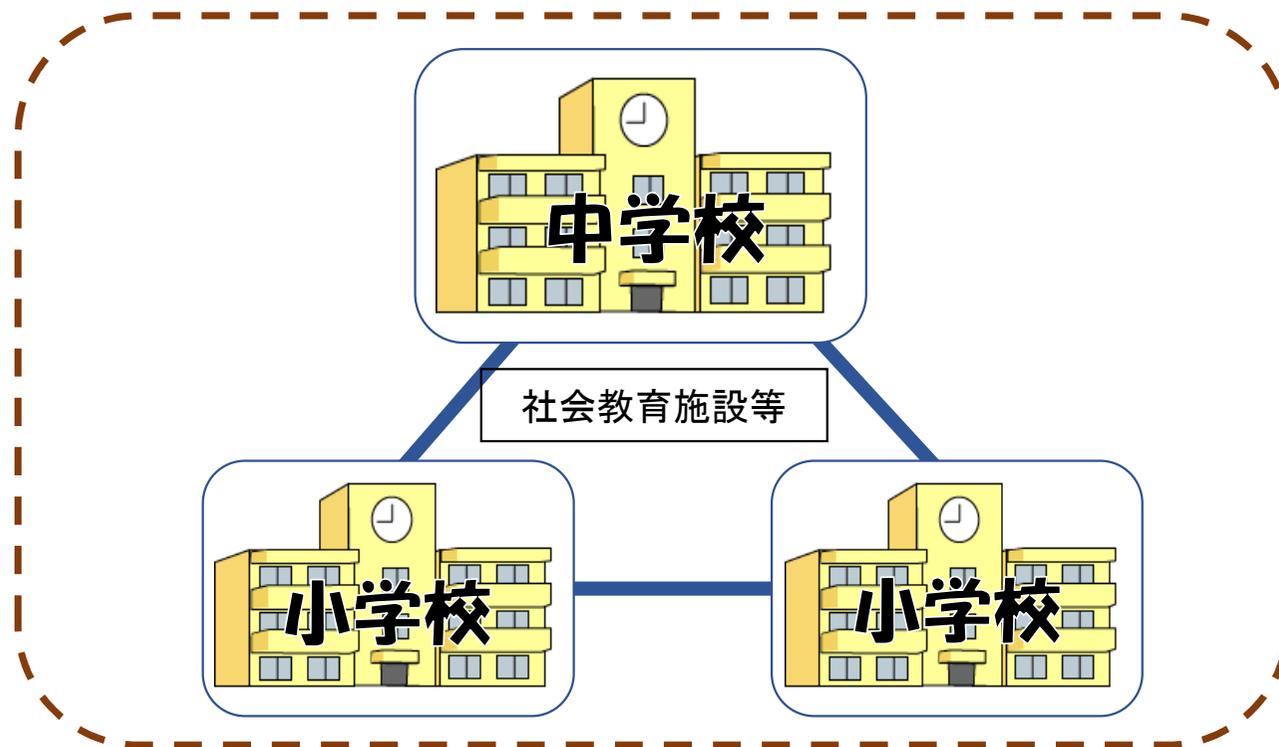
ながふじ学府一体校（B型）の方向性



令和3年度開校

充実型学府一体校（C型）

学府一体校



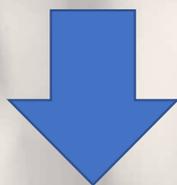
☆現在行われているように、既存施設のまま小中一貫教育を推進し、社会教育施設等を含むもの

磐田市の教育をより充実発展させるために

～将来を見据えた新時代の新たな学校づくり～

- ・ 小中一貫教育、コミュニティ・スクールのさらなる推進
- ・ よりよい教育環境の充実を図る（学校施設の老朽化への対応も含む）
～人と人との「つながり」のさらなる進化～

磐田市ならではの学府一体校の推進



地域や保護者の皆様との対話を通して
構想・具現

教育課題 ○施設の老朽化

建て替え費用

急激な施設整備費の高騰、労働時間の規制強化による工期の延長といった社会環境の変化



「ながふじ学府 約60億円」よりも高くなる可能性も

建て替え期間

構想から完成まで 「ながふじ学府 6年」

「向陽学府 8年」

教育課題 ○学校と地域の連携・共創

○学校と地域の連携・共創

- ・ 探究的な学び、キャリア教育等々、子どもたちの学びの充実・学びの選択肢の拡充
- ・ 支援を必要とする子ども（不登校・特別支級・外国人等）の支援
- ・ 部活動の地域移行
- ・ 教職員の働き方改革（学校が抱え込みすぎた業務、多様な生徒への対応等）・・・

▶ **地域の皆様方のお力が必要に（CSのさらなる充実）**

これからの学校には...

ハード面の整備とともに、ソフト面（地域の皆様方の協力）が必要



御清聴ありがとうございました